



復活節第3主日 (ヨハネ 21:1-19△21:1-14)

イエスの差し出す食べ物を食べる

復活節第3主日、復活したイエスが七人の弟子に現れる場面が朗読されました。続けてイエスがペトロに「わたしを愛しているか」と問いかける場面も選ばれています。この二つの出来事は「弟子たちに示すイエスの愛」でつながりがあります。弟子たちに示すイエスの愛は、同時に私たちに示すイエスの愛でもあります。

連休中に大阪に行っていました。田平から大阪にいる子供達のもとに転出した人を訪ねることができました。教会の人の名前を挙げたら、ふるさとの田平を非常に懐かしがっていました。

信徒会館裏手の土地を長崎大司教区に寄進していただいた関係で、主任司祭が計画していた事業の進み具合をかなり気にしておりました。「自分の目の黒いうちに、完成した姿を見せて欲しい」とお願いされ、「もう少し元気でいてね」とは答えましたが、明言できなかったのが悔やまれました。

残念ながら野球観戦は地元阪神に返り討ちに遭いまして、ようやく帰りの飛行機の列に並んでテレビを見ていたら三連戦の最後だけ勝ちました。「球場に行ったときに勝たんかい!」と思ったものです。

また、旅行中変化はないか、案内所から報告を受けていたのですが、新しく入れ替えた監視カメラでいろんなことが写っていたようです。以前は監視カメラの映像を確認できるのは祭壇の裏、香部屋でしたが、今何が行われているかを監視するには不十分でした。現在は映像は案内所でチェックしていきまして、その中に、聖水を入れた貝殻に手を入れた人たちが、お互いに水掛をしている様子が映っていたそうです。意味を理解できない人の仕業とは言え、残念です。

また、朝ミサが終わってから案内書が来るまでの静かな時間が狙い目だと思ったか、拝観時間9時からと書かれているのに朝7時8時に扉を開けようとしている人たちも写っていました。新しいカメラは高性能で、鼻毛に白髪が交じっているのまで分かりますから、皆さんもご注意ください。

福音朗読は、弟子たちに示すイエスの愛が、物語を理解する鍵だと思います。イエスの配慮が、徒労に終わった昨晚の漁を大漁に変えます。イエスは弟子たちが空しく漁から帰ってきたことをすでにご存知でした。弟子たちの無力感を変えることができるのは、目に見える成果です。この成果を彼らに与えてくれたのは、イエスの弟子たちに対する愛だったのです。

この場面を、別のたとえで考えてみましょう。家庭の中で、親が子を見守ることは当然ですが、子供が目標になかなか到達できないとき、むやみに親が手を貸したりすれば、子供が味わった苦労を水の泡にしてしまいます。子供が体験する苦労を実りに変えてあげるような見守りこそが、何より親の果たすべきことです。それこそが親の子に対する愛な

のです。

ですから、イエスは弟子たちがもう一度湖に網を入れるのを見守ります。彼らの労苦が、イエスの愛ある配慮によって実を結ぶことを学ぶためです。イエスが望めば、魚を天から降らせることもできたでしょう。そうではなく、弟子たちの苦労、味わった無力感が無駄にはならないことを教えるのです。イエスの愛が、これまでの苦労や無力感を豊かさに変えてくれることを教えるのです。

同じことは、イエスがペトロに「わたしを愛しているか」と尋ねる場面にも当てはまります。イエスがペトロを愛しているから、ペトロのイエスに対する愛が豊かに実るのです。「はい、主よ、わたしがあなたを愛していることは、あなたをご存じです」(21・15) ペトロの言葉とは裏腹に、イエスが十字架にはりつけにされたとき、ペトロはその場を離れたのです。それもご存知の上で、イエスの愛がペトロのこの返事を豊かに実らせます。ペトロは最後には、みずからが殉教することで、イエスへの愛を証明しました。

これらをまとめて、「イエスの差し出す食べ物を食べる」としたいと思います。弟子たちは食事をしながら、イエスの愛を理解したからです。イエスの愛からあふれ出た食べ物、イエスの差し出す食べ物が、弟子たちを造り変えていったからです。私たちも、イエスの差し出す食べ物を食べるなら、イエスの真の弟子へと造り変えられていくことでしょう。

余談ですが、「神が差し出す食べ物」に関連して、使徒言行録の次の箇所を思い出しました。ペトロが昼の祈りを終えたとき、幻を見て、示された獣(けもの)を屠って食べなさいと声がしました。もちろんペトロは「主よとんでもないことです」と答えますが、さらに声がして、次のように言われたのです。「神が清めた物を、清くないなどと、あなたは言うてはならない。」(使 10・15)

これは意味深い言葉で、単なる食事のことだけではありませんでした。使徒言行録は宣教活動の最初の頃の物語ですから、異邦人に対する宣教はまだ議論の途中だったわけです。ペトロは幻を見て、異邦人に対する宣教も、神が差し出す食べ物であり、食べるべきだと理解したのです。弟子たちは常に、イエスが差し出す食べ物で満たされ、豊かになっていきました。弟子たちが受け継いだ教会も、イエスが差し出す食べ物で満たされ、豊かになっていったのです。

私たちも、復活の主にならされて豊かになっていきたいものです。私たちに、イエスが愛をもって与えてくださる食べ物はミサの聖体と、宣教への派遣です。派遣は、直接の食べ物ではありませんが、イエスが愛をもって与えてくださるものです。私たちが受け入れるとき、教会はさらに満たされ、豊かになっていきます。

平戸地区にも新しく司祭が赴任してきました。新しく入られた山田教会の主任司祭と共に、ミサの聖体と宣教への派遣を受けて、さらに教会の民が満たされ、豊かになっていきますように。